ニオンにいがか

乗降人員や収入について 取扱業務が無い駅であり 委託できる駅は常時運転

|検討要素に入っていな|

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

対象としている点につい や収入が比較的多い駅を

て考えを問うと支社側は、

JR東日本労働組合新潟地方本部

2017年4月10日発行

第23号(通巻第55号)

発行者:岡村広志 編集者:教育・広報部

新潟地本は3月14日、申8号・駅業務委託のさらな

策において加茂駅・亀田駅 を業務委託化する理由を 鉄道の実現をめざし交渉に臨みました。 き課題の克服と、お客さま・地域社会から信頼される る推進に対する申し入れの団体交渉を行いました。 地本交渉団は、今回の施」いとしました。 加茂・亀田駅の業務委託化の提案を受け、整備すべ |坂町、五泉などが今後の検 その上で、豊栄、

|委託化を行ってきたとし 観点から計画的に駅業務 的な業務運営体制構築の 問いました。 択したとしました。 地本交渉団が、乗降人員 雇用の場の確保と効率 支社側は、エルダー 今回は加茂と亀田を選 -社員 |る駅を選定しているとし ているとしました。 て亀田、加茂も対象に入っ 人出面でなく駅務長がい 明らかにしました。 討駅に入っていることを さらにエルダー先とし プロパーについては1

|考えはあると述べました。 |現在働いている人がその |行き先に含まれるとして、 |て今年度提示した社員の 60 まま若年出+向もあるが 歳に近い人からという

業務委託駅にお

中条、 ると回答しました。 していくことで考えてい

|が行えていないことを明 行ったが少雪で実地教育 屋、津川、出雲崎の3駅が て水原、あつみ、柿崎、 対応可能であり、試行とし その上で、現状では府 燕を対象に机上教育を 分

換だけではなく復旧に相 らかにしました。 交渉団は、ポイント不転

は、ポイント不転対応につ るように求めると支社側 理駅の業務担当を増員す 常時早期復旧のために、管 ても対応できるよう検討 いては、業務委託駅におい



サービスや地域とのつながりは?

ける異 明らかにするよう求める 委託駅社員が対応するこ ととなるが、状況により管 と支社側は、基本的に業務 ると回答しました。 理駅で対応する場合もあ ル対応に対する考え方を 人の際の異常時やトラブ 張しました。

業時間内であれば対応で 構造上対応可能な駅の営 対応可能か判断する必要 きるが、それ以外の場合は があるとしました。 また、車イス対応は駅の いるとしました。

目付

5人計画の仲間が相次答

みや時間帯変更の その上で、事前の申 お 4願い として、 |用を向上させていきたい て着地観光等を通じて利

必要が無ければ

の考えを示しました。

駅社員が一人または無」などする場合もあるが、基 るとの考えを示しました。 |本的には受ける努力はす |れば、何とかしてご希望に |パラリンピックも見据え 沿った旅行を継続しても 交渉団は2020年の

|らうべきではないかと主 と支社側は継続で考えて クルの今後について問う その上で、新潟支社とし 加茂駅のレンタルサ

地域との連携は今後どの

|間の拡大を行うよう求め 業務委託駅におけるサ ・ビス向上のため営業時|ました。

増大とサービス低下とい う改善するべき実態につ が多い中で運転士の労力 いて訴えました。 交渉団は、ワンマン列車

あるとの考えを明らかに 営業時間は縮小の方向で 定しているとする一方で、 利用実態等に合わせて設

これまで行ってきた地 支社側は、お客さまのご 元 |るところはやめる方向だ が対応するとしました。 |支社側は、燕三条又は新潟 |らかにするよう求めると 務委託とは関係しないと に対して行うとしました。 め、加茂は1校やめて2校 して、亀田は出張販売をや 理駅と支社が対応すると ように行っていくのか明 こ明らかにする一方で、 また全体的にやめられ 出張販売については 業

を増員するか、委託駅の再 現実から、 行かないように業務社員 ゆえに業務社員に負担が な時間がかかっている ・ 施策を打ったが

「るにとどまりました。 張しました。 考が必要ではないかと主 ていないとの回答を述べ のための要員配置は考え しかし支社側は異常時

> |う」「2月にエルダー出向 |うる労働側を作り上げよ

に語り合うことで感覚し

運動を振り

できているだろうか?共

|めるし、必要があれば新た の考えを示しました。 .開始する場合はあると

誰もが納得できていない」 のでなく一律の回答。しか 確認し、今後の方針を決定 しこの間の成果と課題を たと我々労働者側が感覚 命が脅かされるものだっ し要求との乖離は大きく エルダー社員制度につい さつで春闘、職場諸問題、 の事象は社員・お客さまの よる格差を反映させたも て触れ、「今春闘は職制に しました。 「上越線での1725 星山執行委員長はあい |の先輩が不安や絶望を感 | 先の提示が始まった。 多く じ、中には制度利用を諦め

|進め方、賃上げに対する想 |分会における組合運動の |役員を担っての取り組み、

ける組合運動の成果と課 いなどをはじめ、職場にお

諸問題解決に向けた奮

新潟支部 第3回定期支部委員会開催 人ひとりの歴史と決断、たたかいや

| ました。約100名が参加 潟支社大会議室で第3回 定期支部委員会を開催し 新潟支部は3月25日、新

|場諸問題は一労働組合の |のたたかいで賃上げや職 |ためたたかおう」「この間 |がいをもてる制度にする としか受け取れない。 |リアしてさえいればいい |る方もいる。経営側の対応| |労働運動を推し進めよう| |いう志を持って職場から 労働側の団結をつくると 付かされ今の我々がある。 労働者の問題なのだと気 問題ではなくオールJR は高齢者雇用安定法をク やり

闘が語られました。

と呼びかけました。 本ユニオンに加入し分会 ら発言がありました。東日 質疑では15名の委員か

|取り組みを作り出した事 立できる体制を構築して りました。全組合員が同じ による組合員の団結があ を開催してきました。そこ の根拠付け集会、報告集会 いきます。 立場に立ち全員運動を確 には常に系統の壁を越え 新潟支部はこの間多く (新潟支部

投稿)